

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 123号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期20年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4000日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は234名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## 越谷市議員選挙特集 シリーズNO4



### 市政レポート “一心太助” をパンフレットに

4年前の市議選の時毎日毎朝の駅立ちで配布している市政レポート“一心太助の天秤棒”の第1号から第50号までを一冊のパンフレットにして市民に配布した。今回はその第二弾として第51号から第100号までを同じ

様に冊子にして駅前で告示日以前に配布した。

印刷が上がったばかりのこの冊子、ページを一つ一つめくりながら5期目の4年間の間、実に様々な市民との出会いや会話や喜びがその時々駅前の空気感から伝わって来る。

それは、時々政治的、社会的な出来事もあれば、越谷市議会や市役所の動きも当然影響しているのだが、朝の僅かな時間に私の目の前を通り過ぎて行く市民の息使いの変化が見てとれる。親しげな挨拶やしぐさや、定期的な差し入れやカンパによる可視化される風景が毎日、毎朝それ自身は小さな、小さな、ほんの一瞬とも思えるほどの時間に過ぎない。

しかし、その一瞬こそが私にとっては肉体的にも精神的にも順調に過ぎ去っていくばかりでない一日3時間ほどの駅立ちを継続していった糧となっていることが紙面には綴られている。そして無関心や決して好意的ではない、それどころか挑発的ななげやりな捨て台詞が体や心に遠慮なくずかずかと踏み込んで来る場面も少なからず起きている。

何故私への投票どころか投票場にさえ足を運んではいないと思われる市民から侮蔑されなければならないのか。

そしてそんな時必ず自分自身に言い聞かせる。私にしかきつとささぐれた気持ちをぶつける人間がいなのだろう、誰もいないのなら私が相手になって少しでも一瞬でも気分が晴れるのならそれはそれで毎日続ける意味もあると。

ただ、それは一瞬にしか過ぎない、その市民にとって一瞬の消費材でしかない。私の役割はそのぶつけられた社会的、政治的な背景や原因とその解決を図っていく事に他ならない。

また、どこにでもいる普通の市民による侮蔑的な言葉や尊厳が傷つけられる対応の日々に晒されている市民が少なからずいる。

しかも私の住んでいるこの街に何代にもわたり差別されて来た市民が、自らの出自や家族や性別と言う本人にはあらがうことも選択することも不可能な事を理由に繰り返される。

こんな不条理に声を上げる事も出来ず、ただただその場を繕い、作り笑いでやり過ごし差別されて来た市民の慟哭は、駅で私に向けられて来たものとは比較されようもない。

だから、こんな事ではへこたれないと。気を取り直してそんな時こそより笑顔で、より平常心で、と。

(冊子をご希望の方は、差し上げますのでメール等で声を掛けて下さい。)

(裏へ)

## 選挙初日、告示日の恒例行事とは

4月16日(日曜日)越谷市議選挙の告示日となったが、候補者になるはずなのに立候補届書類を市選挙管理委員会に提出して、受理され所謂選挙七つ道具を交付されないと、その前には一切の選挙運動は出来ない様に公職選挙法に規定されている。

そのため、当日は会場となった越谷市中央市民会館での受付を順にすまさなければならない。

当然私の陣営も市民二人で午前8時30分には会場で待機していた。

ただ、今回は32人の定数に47人の立候補者となり過去最大の人数となったため、時間を相当要する結果となった。

更に、選挙カーも市役所前の駐車場での待機となり、これも街宣用の許可証がないと運行出来ないの、ひたすら駐車場で待機していたが、当然他の候補者の街宣車も待機しているので、現職議員は当然、新人の候補者や運動員とも談笑しながらの時間帯となった。

ただ選挙カーの上にある看板にはそれぞれ候補者の名前やデザインが記されているのだが、全車覆いによって目隠しがされている。

(選挙最終日、午後6時から午前0時まで、せんげん台駅東口で選挙カーを止めてライブ中継で最後まで公約を訴えた。しかし選挙カーを事務所に返すためなんとギリギリ10分前には駅から事務所に帰らないと、この看板は午前0時以降には再び覆いをしなければならなかったため)

これも公選法の規定があり、許可証が来て初めて使用できるため、受付が終わった陣営は早速覆いを取る除くことから選挙始動となる。

私たちも、同じ様に段取りが終わり、選挙カーに乗り込み、まず地元の東都自治会の市民に向けて立候補のご挨拶と一週間に渡る選挙運動への協力の呼びかけを初マイクで行った。

平行して事務所では、公選ビラ(4000枚)への選挙証紙を一枚一枚張り付ける作業に事務スタッフは大わらわ。なにしろこの証紙入りの公選ビラでなければ街頭では一切配布出来ない規定。やはり公選法で規定されている。

また、市内520か所への公営掲示板へのポスター張りも同時進行となった

すでに6回目の選挙なので、それほどの混乱はないのだが、新人の候補者はこれだけでも一苦労だろう。

(4月18日・日曜日)

## 開票日当日もライブ中継で公開配信



4月23日(日曜日)、快晴の投票日びよりとなり、午

前8時30分からの地元自治会の市民の皆さんで毎日開催されているラジオ体操に参加した。

参加されている馴染みの市民の皆さんに選挙運動へご協力に対して挨拶をした後、投票所となっている桜井南小学校体育館で投票を済ませたが、あまり投票率は芳しくなかった。

そして午後8時に投票が締め切られ、市内の50数か所の投票場から投票箱が市内増林にある市立総合体育館に集められ、職員を中心に開票作業が開始された。

私は、事務所で午後9時から開票速報と当落結果をYouTubeで公開配信に臨んだ。

私の相手をして頂いのは、選挙運動を終始参加して頂いた吉田理子さんや市民と対談した。

投票率が、史上最低を更新して35.06%となり、実に有権者27万人の内19万人もの市民が棄権をした結果は、地方政治に対する不信感なのか深刻だ。

開票会場には、刻々と作業が進む状況を伝えるため市民スタッフ2名を派遣して、スマホを通して映像を送ってもらった。ただ、開票作業の段取りは事前にはわからないため作業の様子は確認しても今どの段階の作業工程なのかは分からない。しかも公式の開票発表は午後10時過ぎとなったので、票の積み上げ状況を双眼鏡で見ながらの実況中継となった。

最も私たちの事務所中継班は、画像と会話でつないで行くしかないの、ひらすら話し続けた。選挙のふり返りでもあるので、テーマや材料には事欠くことはなかったが、流石に3時間は多少長い気もしながら配信した。

午後11時には、私は当選確実となったので、派遣スタッフは午後11時過ぎには事務所に呼び戻した。そして放映終了後の午前0時過ぎに簡単な当選祝いをして散会した。

明日は午前5時30分からせんげん台駅東口で通常通りの駅立ちだったが、帰宅して就寝したのは午前2時頃、起床したのは午前4時だったが、また日常が戻って来た。

(4月23日・日曜日)